

NII オープンフォーラム2022
2022.5.30-6.2

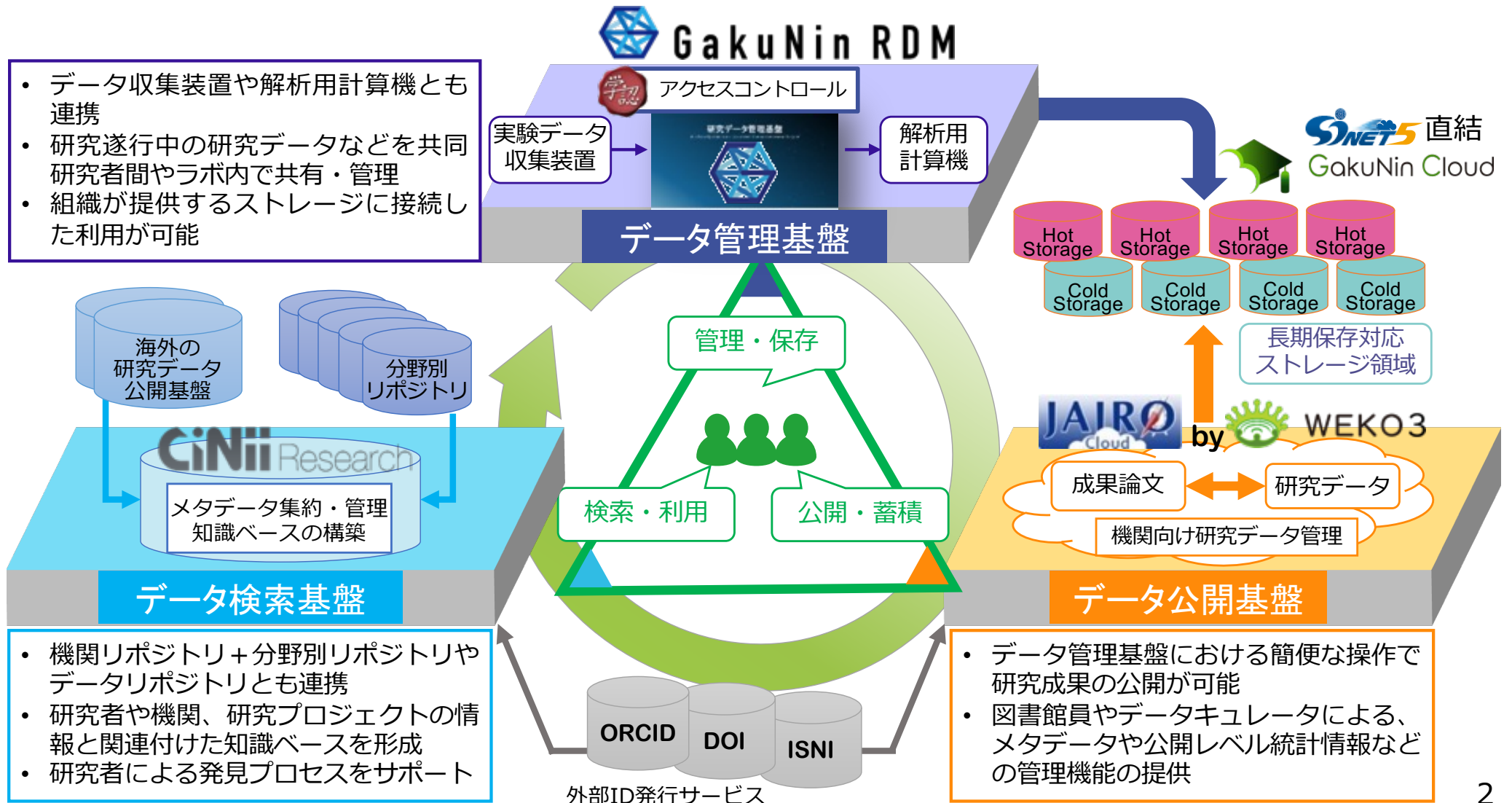
GakuNin RDM アップデート

NIIオープンサイエンス基盤研究センター 下山 武司



研究データ基盤 NII Research Data Cloud

2017年から開発開始 ⇒ 2021年から運用開始

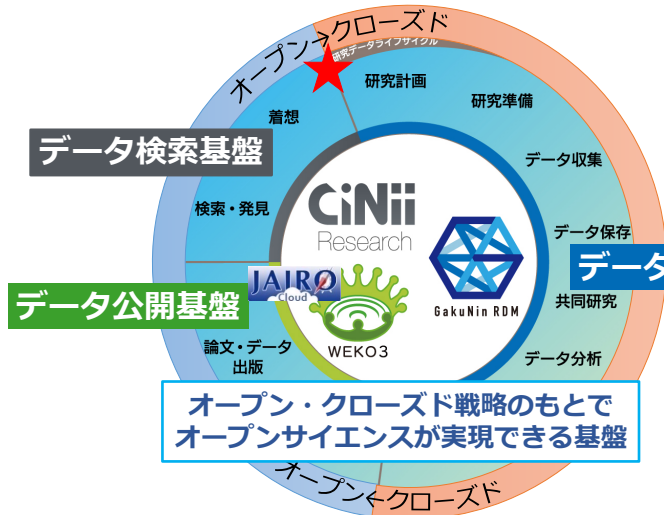


- データ収集装置や解析用計算機とも連携
- 研究遂行中の研究データなどを共同研究者間やラボ内で共有・管理
- 組織が提供するストレージに接続した利用が可能

- 機関リポジトリ+分野別リポジトリやデータリポジトリとも連携
- 研究者や機関、研究プロジェクトの情報と関連付けた知識ベースを形成
- 研究者による発見プロセスをサポート

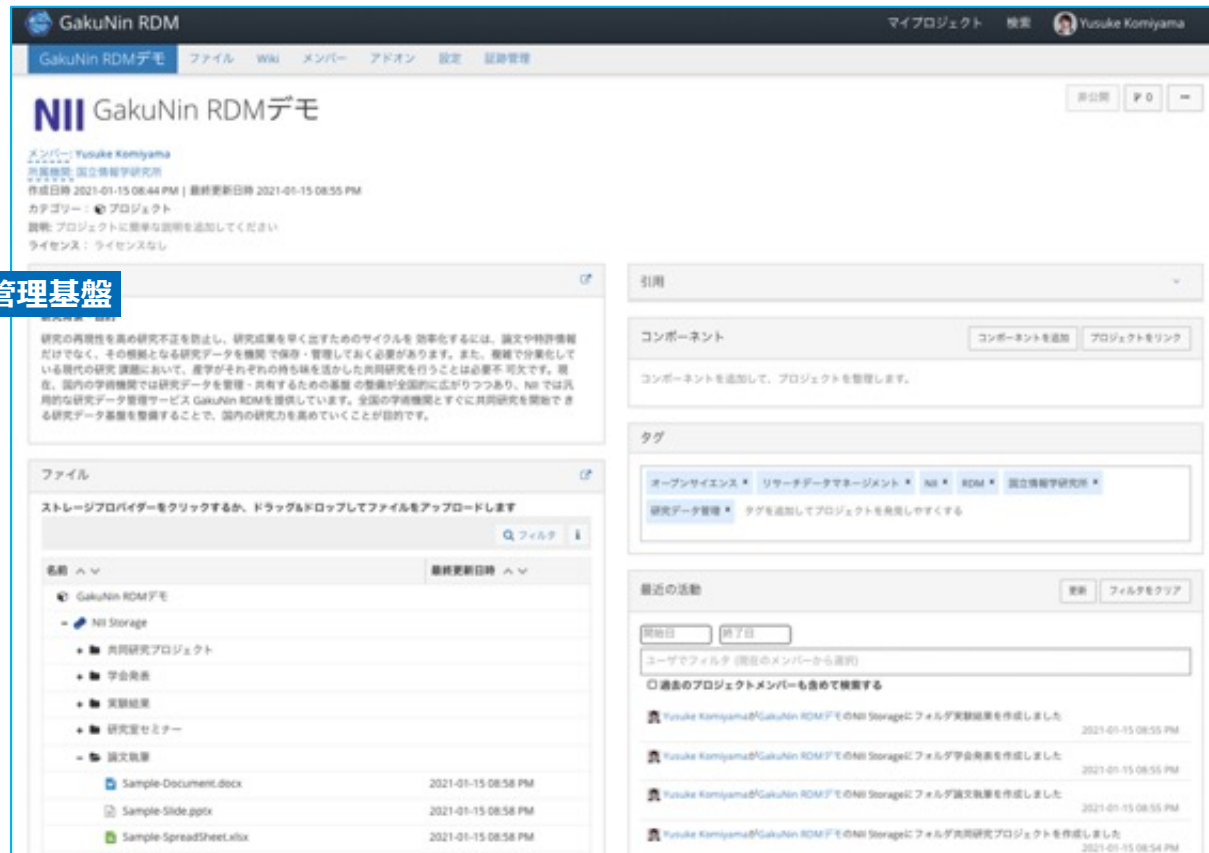
- データ管理基盤における簡便な操作で研究成果の公開が可能
- 図書館員やデータキュレータによる、メタデータや公開レベル統計情報などの管理機能の提供

研究データ管理サービスGakuNin RDMとは



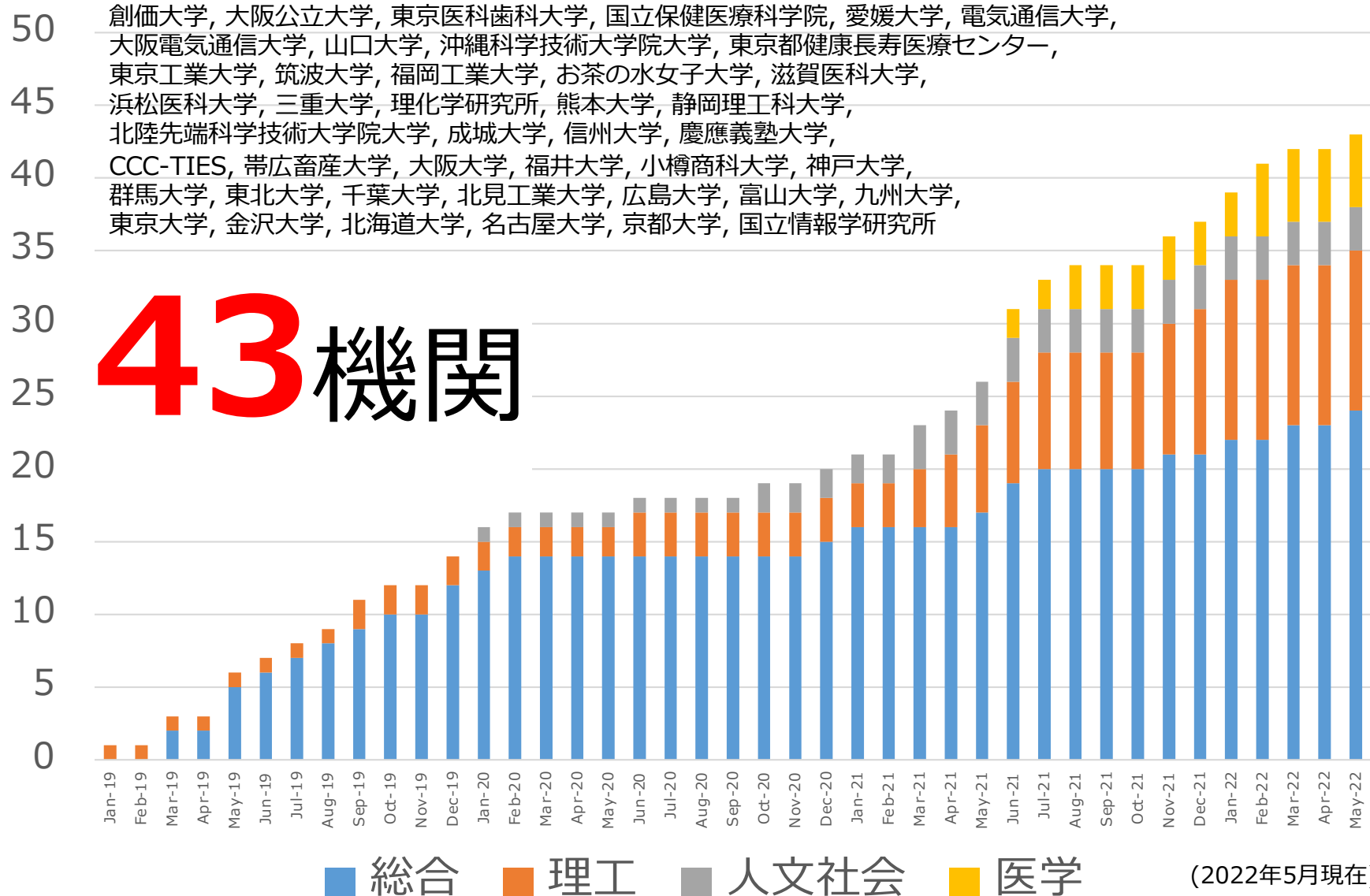
オープン・クローズド戦略のもとで
オープンサイエンスが実現できる基盤

研究データプロセスと
研究データ基盤
NII Research Data Cloud



GakuNin RDM (GRDM) は、国立情報学研究所 (NII) で運用している研究データ基盤NII Research Data Cloudの一部で、研究中のクローズド (非公開、制限共有) なデータを取り扱う事に特化したRDMサービス。2021年4月からは24時間365日オペレーターを配置した運用体制で全国の学術機関にRDMサービスを提供。

GakuNin RDMの利用機関数の増加



『GakuNin RDM 利用機関数』

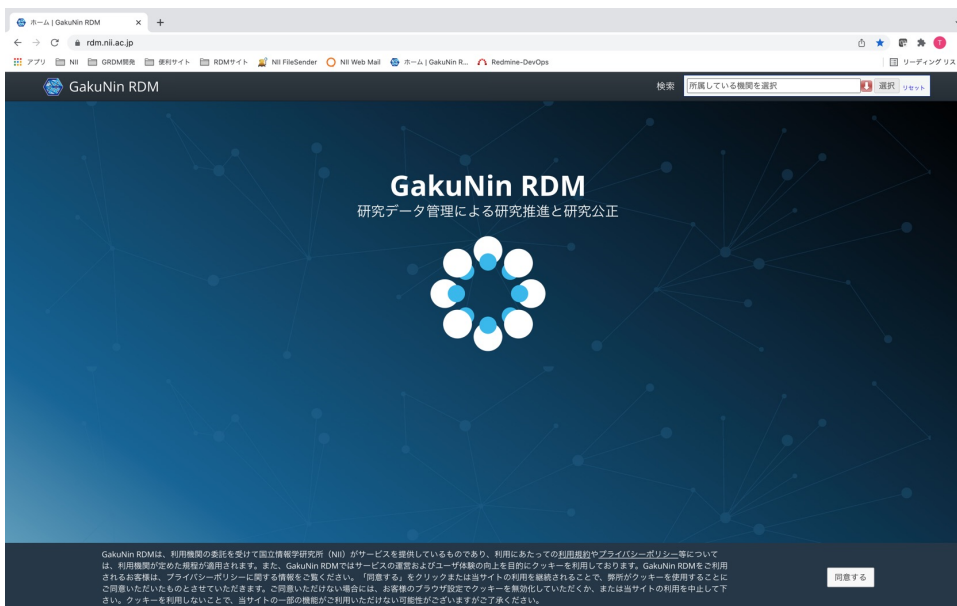
<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/pages/viewpage.action?pageId=41588114>

GakuNin RDM機能拡張・改修のご紹介

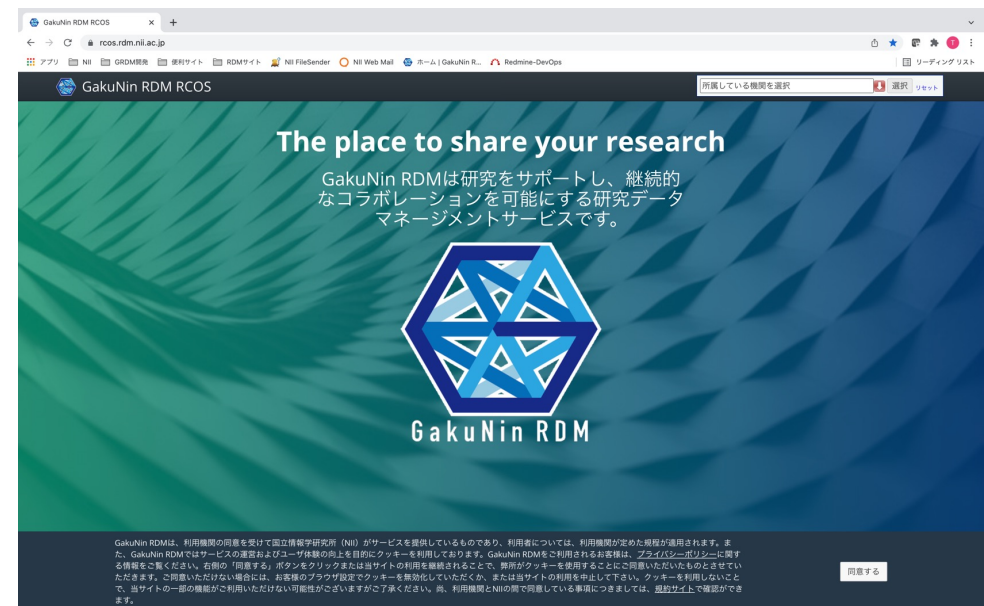
- 前回のオープンフォーラムからの主な機能拡張・改修のポイント
 1. トップデザインの変更
 2. ファイルサイズ上限緩和
 3. メンバー追加時のメールアドレス検索
 4. 初回ログイン時のフロー修正
 5. その他改修
 6. 今後予定されている新機能

1. トップデザインの変更

- OSF.IFのロゴから、GakuNin RDMのロゴに変更
- サービス目的「研究データ管理」を記載



旧トップデザイン



新トップデザイン

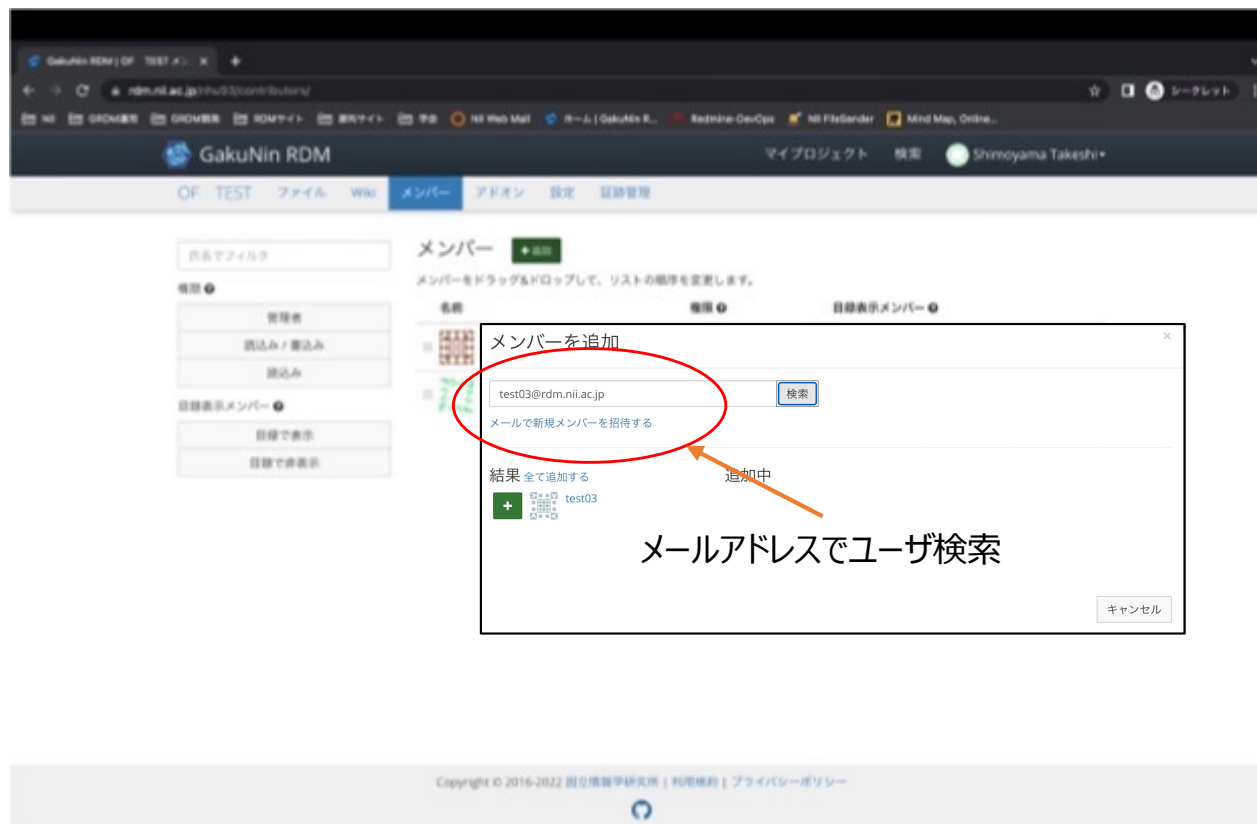
2. ファイルサイズ上限の緩和

ファイルサイズ上限を**5GB**に緩和(一部ストレージ除く)

サービス名	1ファイルあたりの サイズ上限	拡張ストレージ (アドオン方式)	機関ストレージ (アドオン方式)	機関ストレージ (一括マウント方式)	クライアントツールと 研究証跡機能の 自動連携
Amazon S3	5GB	✓	✓	✓	
Azure Blob Storage	5GB	✓			
Bitbucket	(read-only)	✓			
Box	5GB	✓		✓	
Dataverse	2GB	✓			
Dropbox	5GB	✓			
Dropbox Business	5GB	✓	✓		✓
figshare	50MB	✓			
GitHub	100MB	✓			
GitLab	(read-only)	✓			
Google Drive	5GB	✓		✓	
Nextcloud	5GB	✓		✓	
Nextcloud for Institutions	5GB		✓		✓
NII Storage	5GB			✓	
Microsoft365 One Drive	5GB	(※1)	(※1)		
OpenStack Swift	5GB	✓		✓	
Oracle Cloud Infrastructure Object Storage	5GB	✓	✓		
ownCloud	5GB	✓	✓	✓	✓
S3 Compatible Storage	5GB	✓	✓	✓	
S3 Compatible Storage for Institutions	5GB		✓		

3. メンバー追加時のメールアドレス検索

- プロジェクトにメンバーを追加する際のユーザ検索時、従来の **GUID**(※)に加え **E-mailアドレス(完全一致)**での検索が可能に



(※)GUID:
ユーザを特定する識別子、
ランダムな5文字で構成

4. 初期ログイン時のフロー修正

- ユーザー名等が未入力の場合の初期値として
“New User (no name)” を充当(※)

→「誰だかわからない。」

特にメンバー追加の際に困る。そこで、

未入力者にはログイン時に該当項目を入力して頂くよう、
フローを改修しました

- 必須項目：氏名、姓・名、所属（含英語）

(※)2022.5現在 New User(no name)は 28 ユーザ

ユーザ情報入力画面

- お願い：
「名前」に加え、「職歴」→「所属」もご入力下さい

設定

プロフィール

アカウント設定

アドオンアカウント構成

メール通知設定

開発者アプリ

パーソナルアクセストークン

名前 職歴 学歴 ID

氏名 (例: Taro Suzuki Sato) *

Shimoyama Takeshi

上記の氏名は、プロフィールに表示される名前です。引用での名指して、名や姓などを自動的に補充できます。または下のフィールド

自動入力

姓 * ミドルネーム、旧姓等

下山

姓 (英語) * ミドルネーム、旧姓等

Takeshi

敬称 (例: Dr., Prof., Ph.D., M.D. 等)

引用のプレビュー

スタイル

APA

MLA

変更を破棄 保存

名前 職歴 学歴 ID

ポジション 1 IDPプロフィールから読み込み 削除

所属 * 必須

所属 (英語) * 必須

職名

開始日

--月-- 年

終了日

--月-- 年

在籍

別の職歴を追加

変更を破棄 保存

※所属名の入力を頂かないと、次回ログイン時もユーザ情報の設定画面が開いてしまいます。

※入力箇所がわかりにくいのご意見があり、画面やフローを改修予定

5. その他改修

- 「メンバーの追加」からの招待処理フロー改善
 - メンバー追加の際、「Error: Existing email address」と表示され、アカウント登録が進められなくなる不具合を改修
 - 招待メールを紛失した場合
 - 招待後に別の新規アカウントとして有効化してしまった場合
 - 別のアカウントで同一メールが有効化されていた場合
- ストレージ利用量算出不具合の修正
 - プロジェクトごと削除した際、ストレージ利用量が減らない不具合を改修
- その他
 - 利用規約・プライバシーポリシーの案内メッセージ変更
 - 誤解を与える文面の修正や利用不可機能の非表示、等

6. 今後予定されている新機能

- 共通メタデータ項目登録機能
 - 研究プロジェクトに付随する共通メタデータを登録する機能
 - 今後の公募型研究費に基づくプロジェクト報告に利用
- データ解析機能 (BinderHub) 連携アドオン
 - データ解析環境(JupyterNotebook等)との連携機能
- 管理者向け機能
 - 機関ユーザーに関する表示項目(ePPN等)拡張
 - ユーザーの絞り込み検索機能の充実
 - ユーザーリストのTSVファイルダウンロード

最後に

GakuNin RDMは、研究データを管理する我が国の基盤サービスとして、今後もご利用の皆様からのご期待にお応えすることで、日々進化してまいります。

ご意見等につきましては、以下までお寄せください。
rdm_support@nii.ac.jp